

事例 **24時間365日の利用が可能な保育所
～子どもの姿を通して考える～**

こうほうえん（鳥取県） 〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1400番地 TEL 0859-30-0111

活動の概要

男女雇用機会均等法の施行に伴う女性の深夜就労、経済の悪化による共働きの増加、パート等雇用形態の多様化など、社会的環境が急速に変化しているにも関わらず、当市における認可保育所の開所時間は朝7～8時から夕方18～19時までがほとんどで、夜間保育を実施している保育所は皆無でした。このような状況の中、就労保障と子育てを両立するための様々な保育ニーズに対応するため、「キッズタウン24かみごとう」は、24時間365日保育に対応した90名定員の保育所として平成14年4月に開園しました。

法人の概要

昭和5年設立以降、地域医療に貢献してきた米子脳病院（現広江病院）が現法人の母体となっています。昭和62年、当時事務長であった廣江研（現理事長）が、今後訪れるであろう高齢化社会に向け、本地域における老人ホームの必要性を強く感じ設立したのが本法人です。当時の境港市長である安田市長の強い要望もあり、境港市の誠道小学校横に特別養護老人ホームさかい幸朋苑を建設、世代間交流を重視した同地に法人を設置することとなりました。

その後、特養、老健を中心とし、訪問介護、通所介護等住宅サービスを含めたトータル福祉サービス群を「ヘルスケアタウン」として、米子市に2群、鳥取市に1群、クックチル方式で食事を提供するヘルスケアフーズ、24時間保育所キッズタウン24を設置。現在、県内全域で定員数約1,600名の福祉サービス事業を営んでいます。

- 経営施設数…7（62事業）
- 法人全体の年間事業収入…5,020,210千円
- 主な経営施設
P.10参照

実施施設の概要

- 施設名…キッズタウン24かみごとう
- 施設種別…保育所、定員120名

施設の運営方針

法人の理念である「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される施設をめざします」に基づき、地域のニーズを捉え、昼間の保育内容の充実に努め、子どもたちが安心して過ごせるような園運営をしています。

活動の内容

- 活動対象者…生後6週間～就学前の乳幼児
- 活動の頻度…24時間 365日
- 年間延利用者数…148名
- 活動開始年…平成14年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

雇用機会均等法の施行に伴う女性の深夜就業や、経済環境の悪化など障壁は多く、親の就労保障と子育ての両立には矛盾があるのが現実です。核家族化も進み、一人で（母子家庭・父子

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

家庭) 子育てをする人も急速に増加している社会状況の中で、多様な就労形態に対応する保育園が求められてきました。

鳥取県内においても同様であり、子育て中の女性の離婚率は高く、特に夜間保育の充実を望む保護者の高いニーズがありました。

以上のような理由からこの24時間365日の利用が可能な保育所の実現に至りました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

乳幼児の体調不良・保護者の急な勤務変更による欠席等、常に変動する園児数に合わせた効率的な職員配置を行うため、保護者の保育希望表(1月分の利用希望表)をもとに勤務シフトを作成し、仮に変更があった場合にも、夜勤予定者を日勤に切り替える等の対応を可能としています。また、日曜祝祭日に利用される場合、別に利用料は設けず、代わりに平日に休んで頂くことで、利用者の費用面・園の職員配置面の双方にメリットがある方法を取り入れています。

地域ニーズに充分応えるためには、委託費のみでは採算が取り辛いのが実情ですが、当園の場合、法人の介護から保育までのトータルサービスの一環として提供することでこれを実現しています。

■利用者の声、地域の反応

平成15年度アンケート結果(抜粋)：

「急に晩ごはんを頼んでも対応していただき、喜んでます」

「キッズタウンがなければ安心して仕事ができなかったと思います。延長や夜間保育など、とてもありがたく思ってます」

「たまにですが、電話やノートで連絡したこと(明日休みます・休みにしていたが登園します等)が伝わっていない事がある」

「仕方がないことかもしれませんが、帰宅して傷や打ち身を発見することがあります」(保育

士の勤務形態が多様化しているため、申し送りの不備を指摘する声)

「病気(発熱時)時の急なお迎えは無理なので、病児保育をして欲しい」

活動の成果、地域の影響、今後の課題

さて開園して1年半が経過し、子ども達にとってこの保育所が居心地の良い場所になっているか、保育内容が充実しているか保育士として感じる課題は山積しています。24時間保育は確かに他の園との大きな違いですが、子どもの姿になんら違いはありません。保護者と一緒にその子の成長に最適な環境を考え、協力し合っていくことがなにより大切だと痛感しています。現時点での問題点、課題を明らかにし、1つずつ実践するなかで解決策を見いだしていきたいと思います。

- 長時間延長保育(泊まり含む)を受ける子ども達の心の揺れ(疲れ)にどのように対応していくか?
- 変則勤務(10パターン)により複数担任制をとっているが、子ども達に負担がかかっていないか?
- 園行事等をどう捉え、子ども主体の活動にしていくか?
- 育児不安のある保護者に対し、いつでも利用できる相談窓口があるか?
- 園内研修を充実し、知り得た情報を共有し保育実践に生かす体制をどのように整えるか?
- 子どもにとって望ましい職員配置(運営面からみて)は、どのような勤務シフトなのか?等が当面の問題点としてあげられます。